長期実践研究報告書のスタイルについて

見出し１　明朝体24ポイント

学び合う学校文化の創造

「教科・学年・年齢」の壁を越えて

明朝体11ポイント

荒川　誠

明朝体16ポイント

明朝体16ポイント

学校改革実践研究報告

2009.2

福井大学大学院教育学研究科

明朝体10.5ポイント

教職開発専攻（教職大学院）

用紙　Ａ４

余白　上下　右左　ともに23mm

ヘッダー・フッター　ともに10mm

一行の字数　４０字　一頁の行数　３８行

１（部）　明朝体20ポイント

# 第Ⅰ部　（必要に応じて部を設ける）

　　部を設ける場合には一頁を見出しに用い、裏面を白紙にしてください。

表紙

表紙の裏は白紙

目次

目次の裏は白紙（目次が２頁にわたる場合は裏面も目次の続きになります。）

目次には　部　章　節の見出しと頁数を表記してください。

カッコの中に頁数を入れてください。

第１部　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(4)

　第１章　□□□□ □(□□□□ □□□□□ □(6)

２（章）　明朝体20ポイント

第Ⅰ章　実践研究の旋回（明朝体16ポイント）

1.（節にあたる部分） （ゴシック　10.5ポイント）

1)　（項にあたる部分）（ゴシック体　10.5ポイント）

a.　 （目にあたる部分）　（ゴシック体　10.5ポイント）

本文　10.5ポイント

　2008年の著作*From Teams to Knots*においてエンゲストロームは自身の研究の展開を改めて辿り直し、それを歴史的なパースペクティヴのもとに再定位している。スポーツ中継のクルーの談話分析を端緒に、弁護士・教師をはじめ６つの領域にわたる職業人の協働活動の事例分析を重ねつつ、エンゲストロームは同時に関連する学習研究・組織研究の再検討を進めていく（Engeström, 2008)。活動理論の展開、アージリスとショーンの組織学習、ウェンガーらの実践コミュニティ研究（Argyris&Schön,1978;Lave&Wenger,1991; Wenger, 1998; Wenger et.al,2003)をはじめ、エンゲストロームの採り上げる諸論は1980年代以後の学習研究・実践研究の大きな旋回、その稜線を形作る研究群と重なる。これらの諸研究はそれ以前の支配的な学習研究とは焦点・方法・フレイム、そしてフィールドにおいて大きく異なっている。幼児・子ども、学校における学習と生活ではなく、職業人である大人の、職域における協働の実践を通しての学習プロセスに焦点が当てられる。伝統的な学校での学習において、教えるべき項目（教育内容）が予め確定され、その後にその配列と伝達の方法（「カリキュラム」と教育方法）が組織され、項目のチェックによって評価されるのに対し、社会的な状況の中での学習はコミュニティへの参与とそれにともなうアイデンティティの転換をともなう実践の過程としてとらえられる。狭隘な伝統的学校状況に規定された学習と学習研究の枠組みのとらえ返しがそこでは求められている。ある意味では、職場での成人の学習プロセス、その長期にわたる展開へのアプローチが、学習研究に転換をもたらしてきていると捉える返すこともできる。

　社会教育における学習研究　戦後日本において、成人の学習活動に関わる実践研究が社会教育研究の領域において一貫して重ねられてきた。戦後の社会教育は、まず地域における学習の基盤を実現するための提起・政策論から出発するが、1950年代における地域と職場における広汎な学習運動の展開以後、生活記録をはじめとして、実践とその記録が重ねられていく。しかし、従来の学習モデルに囚われる限り、社会教育における学習研究はその起点から壁に直面することになる。予め確定された「教育内容」は存在せず、「カリキュ

参考文献

　末尾に置きます。

　引用した文献だけなく参照したものすべてをまとめます。

　（基本的に日本語の文献は五十音順、外国語の文献はアルファベット順で分けて並べる。）

参考文献（邦語）

阿比留久美「子どもの『居場所』の協同的創造－「澁谷ファイン」におけるネットワークの原理－」，日本社会教育学会編『ＮＰＯと社会教育』,東洋館出版,2008.

伊藤雅子『女性問題学習の視点』,未来社,1993.

ウェンガー, E. 他（桜井祐子訳）『コミュニティ・オブ・プラクティス』,翔泳社,2002 .

ショーン, D.A. (柳沢昌一・三輪建二監訳)『省察的実践とは何か』，鳳書房, 2007.

田中浩司『学校改革と教師の実践共同体』,福井大学大学院教育学研究科学校改革実践研究コース『学校改革実践研究報告』No.6,2005.

日本社会教育学会『ジェンダーと社会教育』,東洋館出版，2001.

福井大学教育学部附属中学校『研究紀要』No.15,1979.

福井大学教育地域科学部附属中学校研究会『探究・創造・表現する総合的な学習』東洋館出版,1999.

福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻『教師教育研究』Vol.2,2009.

藤岡貞彦『社会教育実践と民衆意識』草土文化，1977.

柳沢昌一「アイデンティティ・相互性の視点」,日本社会教育学会『成人の学習と生涯学習の組織化』,東洋館出版,2004.

参考文献（邦語以外）

Adorno,T.W.,et.al.(1969).*Der Positivismusstret in der deutschen Soziologie*, Luchterhand, 1969[城塚登・浜井修訳『社会科学の論理　ドイツ社会学における実証主義論争』,河出書房新社,1979]

Arendt, H. , *Lectures on Kant’s Political Philosophy*, The University of Chicago Press, 1982.

Argyris,C.,Schön, D.A., *Organizational Learning*. Addison-Wesley, 1978.

Wenger,E., *Communities of Practice*. Cambridge University Press,1998.

Wenger,E., et.al.*Cultivating Communities of Practice*. Harvard Business School Press,2002[桜井祐子訳『コミュニティ・オブ・プラクティス』翔泳社,2002].

ページの表記について

ページのフッターの部分に、ページを入れてください。

　ページ数のスタイル：「―１－」等のスタイルは使わず、数字のみにしてください。

　フォント：「Times New Roman」か「century」で10ポイントを指定して下さい。

　フッターの「用紙の橋からの距離」：10mmに設定してください。

表紙から目次までの部分のページ番号の表記について

表紙から目次までの部分についてはローマ数字の小文字でページ番号を付けてください。　（ⅰ,ⅱ,ⅲ,ⅳ,ⅴ,ⅵ,ⅶ,ⅷ,ⅸ,ⅹ, …）

　※表紙の裏等、白紙の部分にも必ずページ数を付けてください。

（印刷製本の際、ページ番号が明記されていないページがあるとトラブルが起こりやすくなります。）

本文の部分のページ番号の表記について

本文についは数字で、通しで頁数を付けてください。（1,2,3……）

　　ページ番号のスタイルは「―１－」等のスタイルは使わず、数字のみにしてください。

　※※部の裏側の白紙等にも必ず頁数を入れてください。

（印刷製本の際、ページ数が明記されていないページがあるとトラブルが起こりやすくなります。）

以上のように、必ずすべてのページにページの番号を明記してください。